



平成 23 年 4 月 25 日

各 位

大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル
ヴィンキュラム ジャパン株式会社
代表取締役社長 瀧澤 隆
(JASDAQ・コード番号: 3784)
問い合わせ先 取締役管理部長 吉田 裕
TEL 06-6348-8951

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）において、平成22年10月25日付で公表した平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正等

(1) 通期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	9,090	291	280	138	4,380 円 95 銭
今回修正 (B)	9,273	222	215	96	3,079 円 08 銭
増減額 (B-A)	183	△69	△65	△42	—
増減率	2.0%	△23.4%	△23.0%	△29.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	9,386	△466	△439	△363	△11,532 円 78 銭

(2) 修正理由

当社の主要顧客である流通サービス業分野においては、企業業績の改善にともない新規 IT 投資が徐々に増え全体的には回復感が表れてきております。しかしながら、顧客の投資に対する慎重な姿勢、低コスト志向は続いており依然として厳しい環境が続いております。

このような状況の中、売上高については、主要顧客向け店舗システム導入展開および販促強化案件の増加によりその他 IT 関連分野において前回予想値を上回り 1 億 83 百万円増の 92 億 73 百万円となる見通しです。

利益面については、第 2 四半期連結会計期間からプロダクト案件の増加により要員稼働率が向上したことや、グループ間での役割分担の明確化やグループ経営の効率化に努めたことなどにより黒字化へ転換できたものの、百貨店業態における業績の低迷や一部で発生した不採算案件の影響などにより、前回予想値と比較して営業利益は 69 百万円下回り 2 億 22 百万円、経常利益は 65 百万円下回り 2 億 15 百万円となる見通しです。

第 4 四半期連結会計期間では、特別損失として大手量販店の経営統合によるサービス提供の停止を受けシステム機器の償却を行うことにより事業整理損 87 百万円を計上いたします。この影響により、当期純利益が前回予想値より 42 百万円下回り、96 百万円となる見通しです。

以上の理由に基づき、平成 23 年 3 月期の通期の予想を修正いたします。

2. 個別業績予想の修正等

(1) 通期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	8,140	197	200	77	2,444 円 44 銭
今回修正 (B)	8,515	217	218	35	1,127 円 83 銭
増減額 (B-A)	375	20	18	△42	—
増減率	4.6%	10.3%	9.3%	△53.9%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	8,832	△357	△351	△297	△9,453 円 98 銭

(2) 修正理由

売上高については、主要顧客向け店舗システム導入展開および販促強化案件の増加によりその他 IT 関連分野において前回予想値を上回り、3 億 75 百万円増の 85 億 15 百万円となる見込みです。利益については売上高の増加に伴い営業利益が 20 百万円増加し 2 億 17 百万円、経常利益が 18 百万円増加し 2 億 18 百万円となる見通しです。

しかしながら、第 4 四半期会計期間では、特別損失として大手量販店の経営統合によるサービス提供の停止を受けシステム機器の償却を行うことにより事業整理損 87 百万円を計上いたします。この影響により、当期純利益が前回予想値よりも 42 百万円減少し 35 百万円となる見通しです。

以上の理由に基づき、平成 23 年 3 月期の通期の予想を修正いたします。

※上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上